

ツマキチョウの蛹を採集

吉富章雄

ツマキチョウの蛹は比較的発見しにくいといわれているが、筆者らは今冬2例（うち1例は同行者が発見）を採集しているので、簡単に報告する。

『原色日本蝶類生態図鑑Ⅰ』（1982）によると、食草付近の低木や草本の茎などで蛹化すると記載されているが、それを裏付けるような蛹化状況であった。

1例は、長野県南信濃村でイボタノキの地上より40cmぐらいの高さで発見。もう1例は、山梨県塩山市にてクロウメモドキより見出した。こちらは地上より30cmの高さであった。わずか2例だけの観察ではあるが、気がついた点を記しておく。イボタノキ、クロウメモドキともに枝は地面と平行にのびる感じの木で、林内でもすぐに見つけることができる。一方、ツマキチョウの蛹は頭部が著しく突出する。今回の観察では、この突出した頭部が枝とほぼ平行になり、あたかも枝の一部であるかのように見え、よく注意しないと見つけられなかった。これがはたして必然的なものか、偶然2例ともそうだったのかわからないが、もしツマキチョウが蛹化のためにふさわしい木を選んでいるとしたら、素晴らしいことだと思う。もう少し観察例を増やし、考えてみたい。

〔採集記録〕

ツマキチョウ蛹 1983.11.20 長野県下伊那郡南信濃村大島（イボタノキ）

八木下 剛

ツマキチョウ蛹 1984. 1.11 山梨県塩山市平山 （クロウメモドキ）

吉富 章雄